

**SHORT BIOGRAPHY OF PROFESSOR KATSUHIKO OHNUMA
AND SELECTED LIST OF HIS PUBLICATIONS**

大沼克彦教授の学術履歴

生年月日 1944年6月2日

Date of birth June 2, 1944

職歴

1982年4月～1987年3月 国士舘大学イラク古代文化研究所講師
1987年4月～1994年3月 国士舘大学イラク古代文化研究所助教授
1994年4月～2015年3月 国士舘大学イラク古代文化研究所教授（同所長：1997年4月～2003年3月）
2006年4月～2015年3月 国士舘大学大学院グローバルアジア研究科（修士、博士課程）教授

Appointments

April 1982–March 1987 Lecturer, Institute for Cultural Studies of Ancient Iraq, Kokushikan University
April 1987–March 1994 Associate Professor, Institute for Cultural Studies of Ancient Iraq, Kokushikan University
April 1994–March 2015 Professor, Institute for Cultural Studies of Ancient Iraq, Kokushikan University (April 1997–March 2013: Director of the Institute)
April 2006–March 2015 Professor, Graduate School of Globalizing Asia (Masters and Ph.D. programs), Kokushikan University

非常勤講師

1996年度 筑波大学歴史・人類学系「考古学方法論Ⅱ」
1999年度～2014年度 東京大学理学部生物学科人類学課程「先史学実習」
2004年度 東京都立大学人文学部「考古学特殊講義Ⅰ」
2006年度～2008年度 札幌大学大学院文化学研究科「古代文明特論」
2007年度 筑波大学歴史・人類学系「考古学方法論Ⅰ」

Part-time lecturer

1996 “Methodologies in archaeology II” (School of Humanities and Cultures, the University of Tsukuba)
1999–2014 “Field and laboratory works in prehistory” (Anthropology Course, Department of Biological Science, Faculty of Science, the University of Tokyo)
2004 “Lecture on specific topic in Archaeology I” (School of humanities, Tokyo Metropolitan University)
2006–2008 “Lecture on specific topic of ancient civilization” (Graduate School of Culture, Sapporo University)

4 大沼克彦教授の学術履歴

2007 “Methodologies in archaeology II” (School of Humanities and Cultures, the University of Tsukuba)

学位／称号

文学学士（南山大学文学部人類学科：1973年3月31日）

文学修士（南山大学大学院文学研究科修士課程（文化人類学専攻）：1977年3月31日）

Ph. D.（ロンドン大学考古学研究所博士課程（先史考古学専攻）：1986年11月5日）

名誉教授（国士舘大学：2015年6月17日）

Degrees/Titles

Bachelor of Arts (Department of Anthropology, Nanzan University: March 31, 1973)

Master of Arts (Graduate School of Humanities, Nanzan University, Major in Cultural Anthropology: March 31, 1977)

Ph. D. (Institute of Archaeology, the University of London, Major in Prehistoric Archaeology: November 5, 1986)

Professor Emeritus (Kokushikan University: June 17, 2015)

所属学会／共同研究員 Academic societies/Fellowships

日本西アジア考古学会

日本旧石器学会

国士舘大学イラク古代文化研究所共同研究員（2015年4月～）

調査／研究活動 Field works/Laboratory works

1973年～1989年 国士舘大学イラク考古学調査団の研究分担者として、イラク共和国における発掘調査（アッタール洞窟遺跡、ハムリン盆地遺跡群、ハディーサ盆地遺跡群、エスキ・モスール遺跡群、アイン・シャーイア遺跡、キシユ遺跡）に参加（文部省科学研究費補助金、日本私立学校振興・共済事業団（学術研究振興資金）の公的助成、および、三菱財団等の民間助成による）

1989年6月～9月 科学研究費補助金（国際学術研究）「デデリ洞穴発掘：シリア・アフリン地溝帯における古人類学的調査」（代表者：東京大学赤澤威教授）のデデリ洞穴遺跡第1次発掘調査に参加（研究分担者）

2005年8月 科学研究費補助金（基盤研究（B））「イラン・ファルス地方シヴァンド川ダム建設に伴う歴史資料・遺跡救済プロジェクト」（代表者：筑波大学片岡一忠教授）の第1次タンゲ・ボラギ遺跡発掘調査に研究協力者として参加

2006年8月 科学研究費補助金（基盤研究（B））「南イランにおける更新世人類の拡散に関する研究」（代表者：筑波大学常木晃教授）の第2次タンゲ・ボラギ遺跡発掘調査に参加（研究分担者）

2012年3月 三菱財団補助金「南イランにおける現生人類の拡散の研究」（代表者：筑波大学常木晃教授）の第1次タンゲ・シカン洞穴遺跡発掘調査に参加（研究分担者）

2012年8月 科学研究費補助金（新学術領域研究）「西アジアにおける現生人類の拡散ルート：新仮説の検証」（代表者：筑波大学常木晃教授）の第2次タンゲ・シカン洞穴遺跡発掘調査に参加（研究分担者）

2013年5月 科学研究費補助金（新学術領域研究）「西アジアにおける現生人類の拡散ルート：新仮説の検証」（代

表者：筑波大学常木晃教授)の第3次タンゲ・シカン洞穴遺跡発掘調査に参加(研究分担者)

助成研究(代表者) Grants (principal investigator)

- 1990年12月～1991年1月 日本学術振興会外国人招へい研究者(短期): Christopher Arly Bergman 博士の招聘:
研究課題「西アジアの人類進化に関する物質文化面の考察及び日本先史時代の技術・形態的研究」
- 1993年5月 文部省国際研究集会派遣研究員: 米国ペンシルヴァニア大学開催の国際シンポジウム「The
Definition and Interpretation of Levallois Technology」に参加: 口頭発表「Analysis of Debitage Pieces
from Experimentally Reduced “Classical Levallois” and “Discoidal” Cores」
- 1996年度～1997年度 科学研究費補助金(萌芽的研究): 研究課題「日本旧石器時代の細石刃製作用岩石加熱処理
に関する研究」
- 1997年度～1999年度 日本私立学校振興・共済事業団(学術研究振興資金): 「シリアにおける先史時代遺跡の発
掘調査: ハブール川中流域とユーフラテス川上流域を中心として」
- 2000年1月～2月 日本学術振興会外国人招へい研究者(短期): イラク共和国文化情報省考古遺産/博物館担当
顧問 Muayad Said Damerji 博士の招聘: 研究課題「イラク共和国の考古学調査の現状と最新の研究成
果について」
- 2003年度 平成15年度科学研究費補助金・基盤研究(C)(企画調査): 「特定領域研究「総合的研究手法による西
アジア考古学」の申請へ向けた企画調査」
- 2005年度～2009年度 科学研究費補助金(平成17年度発足特定領域研究): 研究領域名「セム系部族社会の形成:
ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」(領域代表者)
- 2009年度 国際交流基金知的交流会議助成: 助成対象事業: 国際シンポジウム「部族社会の形成: シリア・ユー
フラテス河中流域の総合研究」
- 2010年度～2012年度 日本私立学校振興・共済事業団(学術研究振興資金): 「ユーフラテス河中流域における遊
牧社会の発生と展開: シリア国ラッカ市周辺の考古学的調査」
- 2013年度 JFE 21世紀財団研究助成(平成25年度): 「ユーラシア地域における古代遊牧社会形成の比較考古学」
- 2013年度～2016年度 科学研究費補助金(基盤B(海外調査)): 「ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学」

研究発表/講演 Conferences/Symposia

- 1987年3月 口頭発表(C.A. Bergman との共同発表)「A Technological Analysis of the Upper Palaeolithic Levels
(XXV-VI) of Ksar Akil, Lebanon」(英国ケンブリッジ大学で開催された国際シンポジウム「The
Emergence of Modern Humans」)
- 1987年3月 口頭発表「The Significance of Ksar Akil in the Levantine Upper Palaeolithic」(英国ロンドン大学で
開催された国際研究集会「The Origin of the Levantine Aurignacian with Special Reference to the Site
of Ksar Akil」)
- 1988年5月 口頭発表(赤沢威との共同発表)「Reexamination of the Lithic Artifacts from Layer B (Square 8-19) of
the Amud Cave, Israel」(フランス・リヨン市で開催された国際シンポジウム「Prehistoire du
Levant」)

6 大沼克彦教授の学術履歴

- 1990年11月 口頭発表「Significance of Layer B (Square 8-19) of the Amud Cave, Israel」(東京大学で開催された国際シンポジウム「The Evolution and Dispersal of Modern Humans in Asia」)
- 1992年5月 口頭発表「Study by Replication on Manners of Micro-blade Detachment」(札幌市で開催された国際シンポジウム「The Origin and Dispersal of Micro-blade Industry in Northern Eurasia」)
- 1992年9月 講義「ヨーロッパ・西アジアの石器」(奈良国立文化財研究所・埋蔵文化財センター主催の「平成4年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修(石器調査課程)」)
- 1999年2月 講演「石器づくり：古代技術復元への試み」(中近東文化センター)
- 1999年3月 講義「メソポタミア文明とシリア：タバンの遺跡の発掘調査」(朝日カルチャーセンター・横浜)
- 1999年8月 講演「世界の石器時代」(「第16回バイオメカニズム・シンポジウム(1999)」：長野県上水内郡信濃町ホテル・タングラムにて開催)
- 2000年4月 講演「シリア・タバンの遺跡の発掘調査(1997～1999年)」(古代オリエント博物館)
- 2000年10月 パネラー参加：シンポジウム「人類の適応行動と認知構造」のパネルディスカッション(長野県八ヶ岳野辺山高原野辺山基幹集落センター)
- 2000年10月 講義：ドイツ・ハイデルベルグ大学(古代オリエント研究所)：授業トピック「Excavations at Tell Taban, Hassake (Syria), 1997-1999」
- 2000年12月 パネラー参加：第14回「東北日本の旧石器文化を語る会：前・中期旧石器の検討」のパネルディスカッション「石器を検証する」(福島県立博物館)
- 2001年3月 口頭発表(共同発表者：沼本宏俊)「Tell Taban, Hassake (Syria) from Which Middle Assyrian Baked-Cylinder Inscriptions were Unearthed」(国際シンポジウム「The International Conference of the Fifth Millennium for the Invention of Writing in Mesopotamia」：イラク共和国バグダッド市考古遺産庁にて開催)
- 2001年5月 講義「メソポタミア文明」(早稲田大学生涯学習講座「外国考古学入門：世界四大文明を考える」：早稲田大学オープンカレッジ)
- 2001年6月 講義「西アジアの先史時代」(NHK文化センター青山教室：JALシニアーズアカデミー)
- 2002年5月 講演「石器づくり技術の発展」(金沢市文化ホール)
- 2002年11月 講演「文化としての石器作り」(愛知県埋蔵文化財センター)
- 2003年6月 講演「人類の進歩と道具：石器製作の視点から」(昭和女子大学)
- 2003年6月 口頭発表「イラク国立博物館の略奪状況(2003年5月の現地調査から)」(公開セミナー「イラクの文化遺産を考える」：東京大学(本郷キャンパス)にて開催)
- 2003年7月 講演「メソポタミア地方の歴史とイラク国立博物館における文化遺産の略奪」(東京都大田区教育委員会社会教育課)
- 2003年8月 パネラー参加：第3回ユネスコ・イラク文化財保護国際会議(東京国際交流館)
- 2004年1月 講義「メソポタミアの先史時代」(朝日カルチャーセンター・横浜)
- 2004年6月 講義「石器製作と文化」(岩宿大学第1講：群馬県岩宿文化資料館)
- 2004年8月 講演「石器をつくること」(町田市立博物館)
- 2004年9月 講演「人類の進化と石器づくり」(平成16年度文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業・道民カレッジ連

携講座「石器づくりシンポジウム in しらたき」：白滝村教育委員会)

- 2004年12月 口頭発表「ルヴァロワ技法から石刃技法へ：レバノン、クサル・アキル岩陰遺跡の例」(東京都立大学で開催された日本旧石器学会第2回シンポジウム「石刃技法の展開と石材環境」)
- 2008年3月 口頭発表(共同発表者：長谷川敦章・木内智康・根岸洋)「農耕と牧畜のはざまに ユーフラテス河中流域の青銅器時代拠点集落：シリア，ビシュリ山系テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の2007年度発掘調査」(池袋サンシャインシティ文化会館で開催された日本西アジア考古学会第15回西アジア発掘調査報告会：平成20年3月15日)
- 2008年11月 口頭発表「Syria-Japan Archaeological Joint Research in the Bishri Region, 2007-2008」(シリア，ダマスカス市考古博物館庁で開催された国際シンポジウム「Al-Golan Colloquium: The History and Antiquities of Al-Golan」：平成20年11月11日)
- 2009年3月 口頭発表(共同発表者：長谷川敦章)「農耕と牧畜のはざまに ユーフラテス河中流域の青銅器時代拠点集落：シリア，ビシュリ山系テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の2008年度発掘調査」(池袋サンシャインシティ文化会館で開催された日本西アジア考古学会第16回西アジア発掘調査報告会：平成21年3月15日)
- 2009年11月 口頭発表(共同発表者：Anas Al-Khabour)「Integrated Research in the Bishri Region」国際シンポジウム「Formation of Tribal Communities: Integrated Research in the Middle Euphrates, Syria」(平成21年11月21日：池袋サンシャインシティ・グラントホール)
- 2010年3月 口頭発表(共同発表者：長谷川敦章)「農耕と牧畜のはざまに ユーフラテス河中流域の青銅器時代拠点集落：シリア，ビシュリ山系テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の2009年度発掘調査」(池袋サンシャインシティ文化会館で開催された日本西アジア考古学会第17回西アジア発掘調査報告会：平成22年3月28日)
- 2011年3月 口頭発表「国士舘大学のイラク考古学調査のあゆみ」(東京文化財研究所文化遺産国際協力センターで開催されたアジア文化遺産国際会議「西アジアの文化遺産：その保護の現状と課題」：平成23年3月4日)
- 2011年3月 口頭発表(共同発表者：長谷川敦章，飯塚守人)「農耕と牧畜のはざまに ユーフラテス河中流域の青銅器時代拠点集落：シリア，ビシュリ山系テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の2010年度発掘調査」(池袋サンシャインシティ文化会館で開催された日本西アジア考古学会第18回西アジア発掘調査報告会：平成23年3月27日)
- 2011年3月 口頭発表(共同発表者：久米正吾，小野勇，赤司千恵)「ユーフラテス河流域の古代墓を掘る：シリア，ビシュリ山系ガーネム・アル・アリ遺跡近郊墓域の第5次調査(2010年)」(池袋サンシャインシティ文化会館で開催された日本西アジア考古学会第18回西アジア発掘調査報告会：平成23年3月27日)
- 2012年3月 口頭発表(共同発表者：常木晃，久田健一郎，古里節夫，中村麻衣子)「南イランにホモ・サピエンスの足跡を探る：アルサンジャン・プロジェクト2011」(池袋サンシャインシティ文化会館で開催された日本西アジア考古学会第19回西アジア発掘調査報告会：平成24年3月24日)
- 2013年3月 口頭発表(共同発表者：常木晃，シャガヤガ・ホルシード，古里節夫)「南イランにホモ・サピエン

- スの足跡を探る：アルサンジャン・プロジェクト2012」(池袋サンシャインシティ文化会館で開催された日本西アジア考古学会第20回西アジア発掘調査報告会：平成25年3月23日)
- 2014年3月 口頭発表(共同発表者：久米正吾，アイダ・アブディカノフ，テミルラン・シャルギノフ，岡田保良，宮田佳樹，ゲードレ・モッサイテ=マッセビシュウテ)「ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学：キルギス，ナリン川流域での日本-キルギス合同考古学調査(2013年)」(池袋サンシャインシティ文化会館で開催された日本西アジア考古学会第21回西アジア発掘調査報告会：平成26年3月23日)
- 2015年3月 口頭発表(共同発表者：テミルラン・シャルギノフ)「ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学：キルギス，クラマ遺跡の発掘調査(2014年)」(池袋サンシャインシティ文化会館で開催された日本西アジア考古学会第22回西アジア発掘調査報告会：平成27年3月21日)
- 2015年10月 基調講演「石器の復元製作と考古学」(群馬県岩宿博物館開催の岩宿フォーラム2015/シンポジウム「石器製作技術：製作実験と考古学」：平成27年10月31日)
- 2016年3月 口頭発表(共同発表者：久米正吾，アイダ・アブディカノフ，早川裕式，宮田佳樹，荒友里子，テミルラン・シャルギノフ)「ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学：キルギス，ナリン川流域，イシク・クル域での日本-キルギス合同考古学調査(2015年)」池袋サンシャインシティ文化会館で開催された日本西アジア考古学会第23回西アジア発掘調査報告会：平成28年3月27日)

公開セミナー等の開催 Public seminars

- 1994年10月 公開セミナー「考古学の新たな動向：考古学の理論と実践」石器技術研究会(代表・大沼克彦)，本郷考古学研究会(代表・安斉正人)共催：国士舘大学鶴川キャンパス
- 1995年5月 公開セミナー「考古学の新たな動向(2)：土俗考古学と実験考古学の進展」同上両研究会共催：国士舘大学鶴川キャンパス
- 1995年10月 公開セミナー「考古学の新たな動向(3)：モノから見た先史時代の変動」同上両研究会共催：国士舘大学鶴川キャンパス
- 1996年5月 公開セミナー「考古学の新たな動向(4)：いろいろな考古学」同上両研究会共催：国士舘大学鶴川キャンパス
- 1996年11月 公開セミナー「考古学の新たな動向(5)：素材・技術・道具」同上両研究会共催：国士舘大学鶴川キャンパス
- 1997年5月 公開セミナー「考古学の新たな動向(6)：旧石器時代石器群の地域的変遷」同上両研究会共催：国士舘大学鶴川キャンパス
- 1998年5月 公開セミナー「考古学の新たな動向(7)：旧石器石器群研究の“いま”と“これから”」同上両研究会共催：国士舘大学鶴川キャンパス
- 1999年5月 公開セミナー「多様化する旧石器研究」同上両研究会共催：国士舘大学鶴川キャンパス
- 2000年1月～2月 日本学術振興会外国人招へい研究者(短期)により招聘した Muayad Said Damerji 博士の公開講演会を開催：1月27日(「メソポタミア初期王朝時代に関する新発見」：筑波大学にて)，1月28日(「イラクにおける発掘調査の最新情報」：東京大学本郷キャンパスにて)，2月5日(「バビロン

- とボルシッパ遺跡の最新の発掘成果」：古代オリエント博物館にて)，2月7日（「ニムルド遺跡から出土した黄金遺宝」：国土館大学世田谷キャンパスにて），2月8日（「イラクにおける最新の発掘成果と流出遺産の問題点」：国土館大学鶴川キャンパスにて）
- 2003年6月 公開シンポジウム「イラクの文化遺産を考える」（主催：バビロンの会（代表・大沼克彦）：東京大学本郷キャンパス）
- 2003年11月 公開シンポジウム「石器づくりの実験考古学：その理論と実践」（主催：石器技術研究会（代表・大沼克彦）：東京大学本郷キャンパス）
- 2009年11月 国際シンポジウム「Formation of Tribal Communities: Integrated Research in the Middle Euphrates, Syria」の開催代表（池袋サンシャインシティ・グランドホール）
- 2012年3月 シンポジウム「ユーラシア乾燥地域の農耕民と牧畜民：考古学，民族学，文献史学の視点から」：国土館大学世田谷キャンパス

報道／広報 **Media coverage**

- 1994年9月 NHK 放送大学「科学技術史・第1回「原始社会：経験の知恵」にゲスト出演
- 1999年6月5日 ケーブルテレビ／サイエンス・チャンネル「愉快的サイエンス・ピープル：原始時代にタイムスリップ」
- 2000年4月21日 NHK 教育テレビ「やってみようなんでも実験：古代の先端技術・石器づくりに挑戦」
- 2001年3月9日 TBS テレビ筑紫哲也ニュース23「特集 立花隆の考古学：ねつ造事件から4ヶ月，立花隆が石器づくりに挑戦」に出演
- 2003年4月3日 東京新聞「戦火の国 遺跡案じ 友を思う」
- 2003年4月17日 朝日新聞「文化」欄「国際協力で遺産の散逸防げ：略奪を受けたイラク国立博物館」
- 2003年4月24日 西日本新聞・政治欄「国際協力で回収急げ イラク国立博物館略奪」
- 2003年5月13日 NHK 教育テレビ「視点・論点：イラク文化遺産はいま」
- 2003年5月15日 Herald Tribune International/the New York Times (the Asahi Shimbun) “Point of View: Prevent Scattering of Iraqi Cultural Assets”
- 2003年6月15日 TBS テレビ「報道特集・イラク文化財略奪」（イラク・バグダッド現地における略奪遺産調査活動記録）に出演
- 2003年10月3日～20日 日本経済新聞・文化欄連載「石器の美 十選」
- 2004年7月9日 朝日新聞・Shot 04欄「作って探る 先人の心」
- 2010年8月 遠軽町教育委員会 DVD「アンジ君の大冒険：石器づくりにチャレンジ／石器の世界へタイムトラベル」製作に協力出演

著書／論文（単著） **Books/Articles (sole authorship)**

- 大沼克彦 1982 「テル・グッパ及びソングルの石器」 *Al-Rafidan* II : 99-105.
- 大沼克彦 1987 「ルヴァロワ技法研究小史」 *Al-Rafidan* VII : 55-76.
- 大沼克彦 1991 「ルヴァロワ技法の再考察：“古典的”ルヴァロワ剥離と円盤形石核剥離」 *Al-Rafidan* XII : 57-69.

- 大沼克彦 1993 「細石刃剥離に関する実験的研究」『細石刃文化研究の新たなる展開 第II巻』佐久考古学会・八ヶ岳旧石器研究グループ：171-184.
- 大沼克彦 1994 「“古典的ルヴァロワ”石核と“円盤形”石核：復元製作に基づく問題提起」*Al-Rafidan* XV：33.
- 大沼克彦 1995 「石器の読み取りに向けて：復元製作による二三の研究例」『先史考古学論集』第4集：1-23.
- 大沼克彦 1995 「湧別技法における石核打面の再生について」『王朝の考古学』雄山閣：3-9.
- 大沼克彦 1995 「石器の作られ方」『文明の原点を探る』同成社：78-96.
- 大沼克彦 1998 「日本旧石器時代の細石刃製作用岩石加熱処理に関する研究」『平成8年度～平成9年度科学研究費補助金（萌芽的研究）研究成果報告書』：5-32.
- 大沼克彦 1999 「西アジア」『岩宿時代を遡る：前・中期旧石器の探求』笠懸野岩宿文化資料館：82-83.
- 大沼克彦 2000 「石器製作技術と音声言語：ルヴァロワ剥離方式における実験研究」『人類の適応行動と認知構造』八ヶ岳旧石器研究グループ：70-77.
- 大沼克彦 2000 「世界の石器時代：その概要と石器製作技術の発展」『バイオメカニズム15：形と動きの探求』バイオメカニズム学会（編），東京大学出版会：1-13.
- 大沼克彦（訳）2000 「湾岸戦争以後のイラクにおける発掘調査（原著：Rabi M. Sami Al-Kaisi “Archaeological Excavations in Iraq after the Gulf War”）」『日本考古学』日本考古学協会（編），10号：87-96.
- 大沼克彦（訳）2001 「バビロンとボルシッパ遺跡の最新の発掘成果（講演原稿：Muayad Said Damerji）」『オリエンテ』22号：4-10.
- 大沼克彦 2002 『文化としての石器づくり』学生社
- 大沼克彦（訳）2002 「最近のイラクでの調査及び文化財保存について」（原文：Donny G. Youkhanna）『西アジア考古学オリエンテ』日本西アジア考古学会（編），3号：151-152.
- 大沼克彦 2003 「イラク国立博物館の状況と略奪文化遺産のリスト」『オリエンテ』27号：21-26.
- 大沼克彦 2004 「人類の進化と石器製作技術の発展：石器復元製作の視点から」『作業の科学』5号：45-68.
- 大沼克彦 2004 「日本列島域のルヴァロワ様剥離：復元製作に基づく問題提起」『考古学研究発刊50周年記念論文集：文化の多様性と比較考古学』考古学研究会（編）：399-406.
- 大沼克彦 2004 「槍先形尖頭器の復元製作で生じた剥片の分析」『石器づくりの実験考古学』石器技術研究会（編），学生社：110-122.
- 大沼克彦 2004 「ルヴァロワ技法から石刃技法へ：レバノン，クサル・アキル岩陰遺跡の例」『平成16年12月日本旧石器学会第2回シンポジウム予稿集：石刃技法の展開と石材環境』日本旧石器学会（編）：27-33.
- 大沼克彦 2008 「石器技術の発展の契機となったもの」『手と道具の人類史』協同医書出版社：63-99.
- 大沼克彦 2010 「石器の製作技術」『講座「日本の考古学2 旧石器時代（下）」』青木書店：3-21.
- 大沼克彦 2012 「国士館大学のイラク考古学調査のあゆみ」『西アジアの文化遺産：その保護の現状と課題』東京文化財研究所：49-52.
- 大沼克彦 2015 「石器の復元製作と考古学」『石器製作技術：製作実験と考古学 予稿集』岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会：2-10.
- 大沼克彦 2017 「石器作りの手」『手の事典』朝倉書店：423-428.
- K. Ohnuma 1976 Lithic Artifacts from Tar Jamal and Hafna. *Al-Tar I: Excavations in Iraq, 1971-74*. The Institute

for Cultural Studies of Ancient Iraq, Kokushikan University: 303–329.

- K. Ohnuma 1986 *A Technological Study of the Upper Palaeolithic Material from Levels XXV to XIV of Ksar Akil* (ロンドン大学考古学研究所に提出の Ph.D. 論文)
- K. Ohnuma 1986 Lithic Artifacts from Tar Jamal. *Al-Rafidan* V-VI: 51–57.
- K. Ohnuma 1988 *Ksar Akil, Lebanon: A Technological Study of the Earlier Upper Palaeolithic Levels of Ksar Akil*. British Archaeological Report, International Series 426, Oxford.
- K. Ohnuma 1990 An Analysis of the By-products of Experimental Manufacture of Classical Levallois Flakes. *Al-Rafidan* XI: 113–141.
- K. Ohnuma 1992 The Significance of Layer B of the Amud Cave (Israel) in the Levantine Levallois-Mousterian: A Technological Study. *The Evolution and Dispersal of Modern Humans in Asia*. Hokusensha Pub. Co., Tokyo: 83–106.
- K. Ohnuma 1993 Experimental Studies in the Determination of Manners of Micro-blade Detachment. *Al-Rafidan* XIV: 153–181.
- K. Ohnuma 1993 Study by Replication on Manners of Micro-blade Detachment. *The Origins and Dispersal of Microblade Industry in Northern Eurasia*, 国際シンポジウム実行委員会, 札幌: 211–216.
- K. Ohnuma 1995 Analysis of Debitage Pieces from Experimentally Reduced “Classical Levallois” and “Discoidal” Cores. *The Definition and Interpretation of Levallois Technology*. Prehistory Press, Madison, Wisconsin: 257–266.
- K. Ohnuma 1997 Chronology of the “Proto-Neolithic” of Iraq and Syria: A Hypothetical View. *Al-Rafidan* XVIII: 45–58.
- K. Ohnuma 1998 Lithic Artifacts from Haditha, Iraq. *Al-Rafidan* XIX: 33–52.
- K. Ohnuma 2002 Lithic Artifacts from Tell Taban, Hassake, North-East Syria. *Al-Rafidan* XXIII: 53–67.
- K. Ohnuma 2008 Lithic Assemblages from TB75 and TB130. *Tang-e Bolaghi*. Al-Shark, Vol. 3: 87–119.
- K. Ohnuma 2009 Syria-Japan Archaeological Joint Research in the Bishri Region, 2007–2008. *History and Antiquities of Al-Golan, 2008–2007*. Syrian Directorate General of Antiquities and Museums: 99–114.
- K. Ohnuma 2012 Lithic Artifacts and Their Significance in the Region. *The Arsanjan Project, 2011*. 筑波大学: 18–25.

著書／論文（共著） **Books/Articles (joint authorship)**

- 大沼克彦・久保田正寿 1992 「石器製作技術の復元的研究：細石刃剥離方法の同定研究」 *Al-Rafidan* XIII: 1–26.
- 大沼克彦・西秋良宏・鈴木美保（共訳） 1998 『石器研究入門』（原著： *Technology of Knapped Stone* (M-L. Inizan, H. Roche, J. Tixier 著 1992: C.N.R.S.)) クバプロ
- 鈴木美保・五十嵐彰・大沼克彦・門脇誠二・国武貞克・砂田佳弘・西秋良宏・御堂島正・山田哲・吉田政行 2002 「石器製作におけるハンマー素材の推定：実験的研究と考古資料への適用」 『第四紀研究』 41 (6): 471–484.
- 長谷川敦章・木内智康・根岸洋・大沼克彦 2008 「農耕と牧畜のはざまに ユーフラテス河中流域の青銅器時代拠点集落：シリア，ビシュリ山系テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の2007年度発掘調査」 『考古学が語る古代オリエント：第15回西アジア発掘調査報告会報告集』（日本西アジア考古学会発行）: 62–69.

- 大沼克彦・長谷川敦章 2009 「農耕と牧畜のはざまに ユーフラテス河中流域の青銅器時代拠点集落：シリア，ビシュリ山系テル・ガーネム・アル・アリ遺跡2008年度発掘調査」『考古学が語る古代オリエント：第16回西アジア発掘調査報告会報告集』（日本西アジア考古学会発行）：76-79.
- 長谷川敦章・大沼克彦 2010 「農耕と牧畜のはざまに ユーフラテス河中流域の青銅器時代拠点集落：シリア，ビシュリ山系テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の2009年度発掘調査」『考古学が語る古代オリエント：第17回西アジア発掘調査報告会報告集』（日本西アジア考古学会発行）：70-75.
- 長谷川敦章・飯塚守人・大沼克彦 2011 「農耕と牧畜のはざまにユーフラテス河中流域の青銅器時代拠点集落：シリア，ビシュリ山系テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の2010年度発掘調査」『考古学が語る古代オリエント：第18回西アジア発掘調査報告会報告集』（日本西アジア考古学会発行）：62-67.
- 久米正吾・小野勇・赤司千恵・大沼克彦 2011 「ユーフラテス川流域の古代墓を探る：シリア，ビシュリ山系ガーネム・アル・アリ遺跡近郊墓域の第5次調査（2010年）」『考古学が語る古代オリエント：第18回西アジア発掘調査報告会報告集』（日本西アジア考古学会発行）：68-74.
- 常木晃・大沼克彦・久田健一郎・古里節夫・中村麻衣子 2012 「南イランにホモ・サピエンスの足跡を探る：アルサンジャン・プロジェクト2011」『考古学が語る古代オリエント：第19回西アジア発掘調査報告会報告集』（日本西アジア考古学会発行）：8-15.
- 常木晃，大沼克彦，シャガヤガ・ホルシード，古里節夫 2013 「南イランにホモ・サピエンスの足跡を探る：アルサンジャン・プロジェクト2012」『考古学が語る古代オリエント：第20回西アジア発掘調査報告会報告集』（日本西アジア考古学会発行）：18-25.
- 久米正吾，アイダ・アブディカノワ，テミルラン・シャルギノフ，岡田保良，宮田佳樹，ゲードレ・モッサイテマツゼビシュウテ，大沼克彦 2014 「ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学：キルギス，ナリン川流域での日本-キルギス合同考古学調査（2013年）」『考古学が語る古代オリエント：第21回西アジア発掘調査報告会報告集』（日本西アジア考古学会発行）：82-88.
- テミルラン・シャルギノフ，大沼克彦 2015 「ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学：キルギス，クラマ遺跡の発掘調査（2014年）」『考古学が語る古代オリエント：第22回西アジア発掘調査報告会報告集』（日本西アジア考古学会発行）：66-71.
- 久米正吾，アイダ・アブディカノワ，早川裕式，宮田佳樹，荒友里子，テミルラン・シャルギノフ，大沼克彦 2016 「ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学：キルギス，ナリン川流域，イシク・クル域での日本-キルギス合同考古学調査（2015年）」『考古学が語る古代オリエント：第23回西アジア発掘調査報告会報告集』（日本西アジア考古学会発行）：70-75.
- テミルラン・シャルギノフ，オロズ・ソルトバエフ，大沼克彦 2017 「キルギス，クラマ遺跡の発掘調査（2014~2015）」，大沼克彦・久米正吾（編）『キルギスとその周辺地域における遊牧社会の形成』（2016年度科学研究費基盤研究（B）海外学術調査「ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学」論文集）：11-20.
- K. Ohnuma and C.A. Bergman 1982 Experimental Studies in the Determination of Flaking Mode. *Bulletin of the Institute of Archaeology, University of London* No. 19: 161-170.
- C.A. Bergman and K. Ohnuma 1983 Technological Notes on Some Blades from Hummal Ia, El-Koum, Syria. *Quartär* Vol. 33/34: 171-180.

- K. Ohnuma and H. Inaoka 1986 Excavation in Hill-C-12 Cave (Cave C-12). *Al-Rafidan* V-VI: 28–36.
- D.R. Griffiths, C.A. Bergman, C.J. Clayton, K. Ohnuma, G.V. Robins and N.J. Seeley 1987 Experimental Investigation of the Heat Treatment of Flint. *The Human Uses of Flint and Chert*. Cambridge University Press: 43–52.
- C.A. Bergman and K. Ohnuma 1987 The Upper Palaeolithic Sequence of Ksar Akil, Lebanon. *Berytus* Vol. 35: 13–40.
- K. Ohnuma and T. Akazawa 1988 Reexamination of the Lithic Artifacts from Layer B of the Amud Cave, Israel. *Paléorient* Vol. 14, No. 2: 137–144.
- K. Ohnuma and K. Matsumoto 1988 Lithic Artifacts from Level 6 of Tell Der Hall, Eski Mosul (Iraq): A Preliminary Report. *Al-Rafidan* IX: 73–89.
- K. Ohnuma and C.A. Bergman 1990 A Technological Analysis of the Upper Palaeolithic Levels (XXV-VI) of Ksar Akil, Lebanon. *The Emergence of Modern Humans*. Edinburgh University Press: 91–138.
- K. Ohnuma, K. Aoki and T. Akazawa 1997 Transmission of Tool-Making through Verbal and Non-verbal Communication: Preliminary Experiments in Levallois Flake Production. 『人類学雑誌』 105 (3): 159–168.
- K. Ohnuma, H. Numoto and Y. Okada 1999 Excavation at Tell Taban, Hassake, Syria: Report of the 1997 Season of Work. *Al-Rafidan* XX: 1–47.
- K. Ohnuma, H. Numoto and M. Shimbo 2000 Excavation at Tell Taban, Hassake, Syria (2): Report of the 1998 Season of Work. *Al-Rafidan* XXI: 1–50.
- K. Ohnuma and H. Numoto 2001 Excavation at Tell Taban, Hassake, Syria (3): Report of the 1999 Season of Work. *Al-Rafidan* XXII: 1–64.
- A. Tsuneki, M. Zeidi and K. Ohnuma 2007 Proto-Neolithic Caves in the Bolaghi Valley, South Iran. *Iran* 45: 1–22.
- K. Ohnuma and A. Al-Khabour 2010 Integrated Research in the Middle Euphrates, Syria. *Formation of Tribal Communities: Integrated Research in the Middle Euphrates, Syria*. 文科省特定領域研究「セム系部族社会の形成：ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」総括班（編）：3–8.
- K. Ohnuma and C.A. Bergman 2013 Technological Notes Concerning “Partially Faceted Butt” on Débitage from the Initial and Early Upper Palaeolithic Levels of Ksar Akil, Lebanon. *Iranian Archaeology* Vol. 4: 7–14.
- A. Hasagawa and K. Ohnuma 2014 New Evidence from Tell Ghanem Al-Ali: A Third Millennium Site in the Middle Euphrates, Syria. *Studia Chaburensia Vol. 4: Settlement Dynamics and Human-Landscape Interaction in the Dry Steppes of Syria*. Harrassowitz Verlag: 125–136.

助成研究の成果報告書 Official reports

- 大沼克彦（編） 1998 『日本旧石器時代の細石刃製作用岩石加熱処理に関する研究』平成8年度～平成9年度科学研究費補助金（萌芽的研究）研究成果報告書
- 大沼克彦 1998 『シリアにおける先史時代遺跡の発掘調査：ハブール川中流域とユーフラテス川上流域を中心として』日本私立学校振興・共済事業団 平成9年度（第22回）学術研究振興資金学術研究報告
- 大沼克彦 1999 『シリアにおける先史時代遺跡の発掘調査：ハブール川中流域とユーフラテス川上流域を中心と

- して』日本私立学校振興・共済事業団 平成10年度（第23回）学術研究振興資金学術研究報告
- 大沼克彦 2000 『シリアにおける先史時代遺跡の発掘調査：ハブール川中流域とユーフラテス川上流域を中心として』日本私立学校振興・共済事業団 平成11年度（第24回）学術研究振興資金学術研究報告
- 大沼克彦 2004 『特定領域研究「総合的研究手法による西アジア考古学」の申請へ向けた企画調査』平成15年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（1））研究成果報告書
- 大沼克彦（編） 2010 『特定領域研究「セム系部族社会の形成：ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」研究成果報告書』平成17年度～平成21年度科学研究費補助金（特定領域研究）研究成果報告書
- 大沼克彦 2011 『ユーフラテス河中流域における遊牧社会の発生と展開：シリア国ラッカ市周辺の考古学的調査』日本私立学校振興・共済事業団 平成22年度（第35回）学術研究振興資金学術研究報告, No. 42
- 大沼克彦 2012 『ユーフラテス河中流域における遊牧社会の発生と展開：シリア国ラッカ市周辺の考古学的調査』日本私立学校振興・共済事業団 平成23年度（第36回）学術研究振興資金学術研究報告, No. 41
- 大沼克彦 2013 『ユーフラテス河中流域における遊牧社会の発生と展開：シリア国ラッカ市周辺の考古学的調査』日本私立学校振興・共済事業団 平成24年度（第37回）学術研究振興資金学術研究報告, No. 41
- 大沼克彦 2014 『ユーラシア地域における古代遊牧社会形成の比較考古学』JFE 21世紀財団2013年度大学研究助成アジア歴史研究報告書

出版の編集 Edited books

- ドニー・ジョージ, 大沼克彦, 松本健（編） 2004 DVDブック『イラク：秘宝と遺跡』講談社
- 大沼克彦（編） 2005～2010 『特定領域研究「セム系部族社会の形成：ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」ニューズレター』文科省特定領域研究「セム系部族社会の形成：ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」総括班, 1～18号
- 大沼克彦・西秋良宏（編） 2010 『紀元前3千年紀の西アジア：ユーフラテス河中流域に部族社会の原点を探る』文科省特定領域研究「セム系部族社会の形成：ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」総括班, 総187頁
- 大沼克彦（編） 2013 『ユーラシア乾燥地域の農耕民と牧畜民』六一書房, 総192頁
- 大沼克彦・久米正吾（編） 2017 『キルギスとその周辺地域における遊牧社会の形成』（2016年度科学研究費基盤研究（B）海外学術調査「ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学」論文集, 総116頁
- K. Ohnuma, S. Fujii, Y. Nishiaki, A. Tsuneki, S. Miyashita and H. Sato (eds) 2010 *Formation of Tribal Communities: Integrated Research in the Middle Euphrates, Syria*. 文科省特定領域研究「セム系部族社会の形成：ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」総括班, 総262頁